

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第71回放送の概要 (2013年10月26日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なか (中嶋邦弘)

コアラさんの地域瓦版

かりん (妹尾優香)
アコ (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
いっちゃん (一ノ瀬悟)

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM) 頑固な肩こり、腰痛に悩まされている。故障のため趣味のスポーツが出来ない。医者から老化だから仕方がないと言われた。姿勢が悪くなってきたと感じる。こんなことで困っていませんか。あなたが” なりたい” カラダが手に入ります。経験豊富な伊集院接骨院があなたの悩みを解決します。本日は健康な体づくりのプロフェッショナル伊集院接骨院様 (電話078-785-4744) の御協力を頂きました。

(CM) 今年、創業90周年を迎えたエキストラコーヒーでは、新商品として、この9月、「カフェオレベース」を発売。からだにやさしい、てんさい糖を使ったコーヒーで、簡単にカフェオレを作る事が出来ます。是非、お試しください。
本日はエキストラ珈琲様 (電話078-671-0135) のご協力を頂きました。

1. オープニング

台風が伊豆大島に接近しているようで心配です。今朝東北地方に地震 (福島県沖、M7.1) があり、津波警報が出ました。雨も降っており心配です。

2. ゲストコーナー (1) 元兵庫県国際交流協会 外国人県民インフォメーションセンター

相談員 富永美子さん

富永美子さんのお父さんは台湾出身、お母さんは日本人で、富永さんは豊中生まれ。北京の学校で勉強し、1980年に香港に移って以来、昨年退職するまで29年間兵庫県に関係する仕事をしていました。兵庫県香港事務所では、3代の所長のサポートをし、3代目所長がなかちゃん (中嶋邦弘) です。当時の香港は、中国の経済改革開放が始まってから10年余り経った時期で、香港も経済発展がものすごく、兵庫県は広東省と友好提携を結んでいた。そのため香港事務所を設置し富永さんに来て頂いた。なかちゃんは初めて海外駐在員になったので色々助けて頂いた。

当時の事務所の主な仕事内容は、広東省、海南省と兵庫県の仲介地としての役目。兵庫県は広東省をはじめ、後に海南島が広東省から独立して海南省になったので二つの省と姉妹提携を結んでいて、互い

の交流は盛んだった。兵庫県の文化・経済の展示会を開催、知事、議長の公式訪問、経済界のミッションなどの行事で、富永さんは前後合わせて約 24 の訪問団に随行した。富永さんの凄いところは敬語が使えたので、兵庫県からの訪問者はびっくりしていた。訪問日程の調整作業には、特に日本と中国の文化の違いを感じた。例えば兵庫県は分刻みでぎっしりと日程を詰めるが、広東省側の担当者は「兵庫県は何故そこまで詰めなければいけないの？大切なお客さんに自分達は全力で接待するので、我々に任せてくればいいんだよ」と言うので、間に挟まれて困ったこともある。また、食文化も大きな違いがあって、兵庫県のミッションは大体 1 週間は中国に滞在し、毎日中国料理漬なので、香港に戻ると日本食が求められた。体調を崩して戻ってくる人に富永さんは看病もしていた。所長の中嶋さんは、まめに香港の写真を色々撮って、エピソードを添えて県庁に報告していた。帰国後香港滞在記を出版した。後半は富永さんのお陰で中国内を一人で旅することが出来るようになった。

そもそも兵庫県とのつながりが出来たきっかけは、初代の遠藤所長が、日本語のわかる人を探しており、友人を通して面接があり、採用になった。その時期から兵庫県との良縁がはじまり、仕事は忙しかったが、いい勉強になった。中嶋所長を含め、歴代所長と皆さんにも大変お世話になった。

当時の香港は、世界に開かれた国際都市で、各国から様々な人種の人々が来て自由に暮らし、商売をしていた。自然に多文化共生の都市、社会になっているのを肌で感じていた。

3. ミュージックコーナ：アンパンマンマーチのマーチ（やなせたかし作詞、三木たかし作曲）

先日亡くなられたやなせたかしさんは、60 歳でブレイクされたが、いつも正義について考えておられました。正義は不安定で突然逆転することがある。逆転しない正義は、献身と愛であると考え、悪人を倒すより、弱い人を助けることを考えてこられた。そのような考えで作られたのがアンパンマンのマーチだと思います。

4. ゲストコーナ（2）

1991 年に日本（兵庫県）に移り、初めは兵庫県国際交流協会の留学生支援の仕事をし、1994 年に外国人県民インフォメーションセンター相談員の仕事に従事した。外国から来て兵庫県で暮らしている人は外国人としてではなく住民として考え、「外国人県民」と呼ぶことになった。この言葉は兵庫県が最初に言い出したものである。

来日当初、県民だよりの 1991 年 5 月号に掲載の貝原知事の記事に、外国人県民と名付けた意味が書かれており、心を打たれた事を今でも鮮明に覚えている。「21 世紀に向かい心豊かな兵庫への新たな出発」と題し、これからは高齢化社会に向かうので、高齢者、障害者、外国人、日本人問わず、みんなが思いやる心、お互いに助け合い、愛する心を持って、心豊かな兵庫県を目指そうと書かれていた。すなわち兵庫県民は、国籍や民族を越えて、人と人がお互いに尊重し合い、文化、アイデンティティ、価値観の違いを尊重し、認め合い、そして皆がやさしく、住みやすくなる県を造ろうという旨で、すごく感動した。外国人の立場からも外国人県民と言われると、自分達も地域の住民と言う意識になるのでいい言葉だと思う。

兵庫県国際交流協会・インフォメーションセンターには、英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語の相談員がおり、相談と情報提供をしている。体制はセンター長以下 5 名の相談員がおり、ある団体では相談員と通訳がいるが、センターは 4 言語で直接相談にしている。相談者は母国語で話せるだけでもほっとして、喜ぶ。兵庫県内の登録外国人はおおよそ 100 カ国、10 万人で、多いのは神戸市以外では、姫路、西脇、豊岡など広範囲にわたり、例えば中国で日本人の伴侶と出会い、日本に移住した中国人や技能実習生などが住んでいる。

中国語の相談では、国際結婚が多くなっており、文化の違いや言葉が通じないため離婚またはDVに発展した相談、技能実習生の実習先でのトラブルなどの労働問題、子供の進学などの教育問題などがあった。相談事例としては、中国で日本人とお見合いしたある女性が、当時男性はスーツ姿で誠実でおとなしそうに見えたので結婚を決意した。女性は未亡人で、日本で新たに幸せな生活をしようと思ったが、日本での男性（夫）の姿は中国の時と全く異なっていた。夫から若いので夜の仕事をしようと言われ、断ると暴力を振るわれ、体を壊してしまい、出ていけと責められた。その女性は親戚も友人もいないので公園をさまよひ、いまさら中国にも帰れないと思い詰められ、自殺を考えた。この場合は、まずDV被害者を一時保護する施設に移ってもらい、精神的に受けた苦痛をじっくりと傾聴し、本人が後の自立に繋がるように取り組んでいくので、相談は長期にわたった。センターだけでは解決できない場合、他市の国際交流団体やNPO・NGOと連携をとって、それぞれの得意分野を生かして対応している。

センターには、いつ、誰から相談が入るかわからないのでいつも緊張する。新政策が次々出てくる時は、情報を収集して、随時相談に対応できるようにしておくことが大事。相談員は、広い分野の知識と情報を持っていないと適切な対応が出来ないので、土日はよく講習会などに行き勉強している。法律に関わる相談については、センターの制度の一つに、国際交流協会と兵庫県弁護士会が連携し、週1回（もとは3時間、今年からは2時間）、一人につき1時間の法律相談をしている。予約制で相談員は事前に聞いた内容を整理し、弁護士に伝え、相談員は通訳として入る。通常の短い市民相談より充実している。

相談者は悩みを抱え電話してくるか、来訪。相談するには勇気がいるので、相談員は心を開き、相談者の立場に立って話を聞くのが大事。彼達の周りには友人、親戚がいないか、少ないので悩みの吐き処がない。また仮に話が出来てもコミュニティの中で個人情報が出るのが心配で、相談員に打ち明けるケースが多い。センターでは秘密厳守が原則。このような状況の中で問題解決に繋がった時は相談者から「助かった！」の一言や笑顔でうれしい気持ちになる。相談員をしていて良かったと思う。

地方では外国人に対し、単なる稼ぎに来たといった偏見もあるが、彼達は日本に来たからには日本の社会に溶け込むように一生懸命働き、暮らしている。仕事で解雇されるのはまず、外国人なので、きつい仕事でも耐えながらがんばっている。税金も払っている。彼達は同じ県民であるが、言葉、文化、制度の壁があるため、情報が十分に伝わらず、日本人と地域との交流が難しくなっている。日本人の中で、センターの存在は余り知られていないようだが、外国人には拠り所になっている。

相談員になって間もなく、ある中国人のお母さんより相談をうけた。子供が学校の友達とスーパーで買い物している時、友達に万引の罪を着せられ、プライドがひどく傷つけられた。「自分はそんな子供に育てた覚えがない」と言いながらも、日本語で弁明が出来ない余りに、親子で悩んでいた。その母親に事情を聞いたうえ、まずは事実とおりに学校と警察に話し、解決できない時は法律相談もある事を伝えた。数年後、相談者と再会した。「あの時はとても助かった、そのこともあり、息子は弁護士を目指して勉強している、対応してもらってなければ親子はどうなっていたかわからない。今は自分達は大丈夫だが、兵庫県にセンターがあることが自分達の強い心の支えになっている。」とってもらえた。

兵庫県と縁があり29年間、わずかながらも県の国際交流・多文化共生事業の仕事に携わせてもらったが、これも関係者の皆様のご支援と教えがあってこそと、心から感謝している。国際交流・多文化共生の地域造りの仕事を例えてみると一つの舞台の表と裏。表に見える国際交流はイベントが多く、神経を使うが時には華々しい、時には喜ばしい場面がある。一方、地域の多文化共生に関わる相談業務は切実で地道な仕事。双方が支えあってこそ、舞台上で素敵な演出ができる。

グローバル化が進む今、日本は世界の舞台で各国と、特にアジアの隣国との国際交流を進め、そして

兵庫県は友好提携の姉妹先と単なる公式的、礼儀的ではない草の根交流を着実に進めていかなければならない。それにはさらに、自国や地域の多文化共生社会の実現のために私たち一人ひとりができることからやっつけていかなければならないと思う。

5. 地域瓦版

11月9日（土）に、JR神戸駅デュオドームで「神戸ビジョンフェスティバル 2013」が開催されます。20歳代から70歳代までの130人のビジョン委員が、「楽しいまち・神戸」の実現に向けて数々の提案をするものです。兵庫県のビジョン委員会のお祭りで、11のブースが出て、防災、兵庫運河の説明、子供達のお絵かき、午後は外国人県民の方の演奏・踊り、長田の方のまちうた、津軽三味線などがあります。また、10時から開催する夢会議は、知事も出席し、神戸の将来について10チームが発表し、来場者の意見を聞きまとめるものです。

6. 来月のゲスト

神戸ベっぴん物語という名のスイーツを販売されている上野商店の上野隆弘さんにお越し頂きます。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：yuukarinikanpai@gmail.com